【平成３０年度　イノベーション創出強化研究推進事業　開発研究ステージ】
30025C

地場種苗・健康診断・経営戦略でピンチをチャンスにかえる マガキ養殖システムの確立

１　代表機関・研究統括者

国立研究開発法人　水産研究・教育機構　長谷川　夏樹

２　研究期間：2018～2020 年度（3 年間）

３　研究目的

地場種苗の安定確保・健康診断によるマガキの養殖管理・最適な経営戦略の確立によって収益性の高い殻付きカキ養殖システムを開発し、本システムで生産されたカキの試験出荷・販売を通じて各地域に適合したビジネスモデルを構築する。

４　研究内容及び実施体制

①　マーケット基軸の次世代型マガキ養殖業のための経済分析

国内外のマーケット分析や各地域の地場種苗を活かして養殖したマガキの差別化要素を解明し、マーケティング戦略を確立する。（水産機構中央水研）

②　地場種苗を活かしたマガキ養殖システムの開発と実践

潮間帯での天然採苗とその地場種苗を活かした殻付きカキの養殖技術を開発し、成長産業化を実現する養殖システムを開発する。

（ケアシェル（株）、道総研釧路水試、厚岸町カキ種苗センター、三重水研、兵庫水技セ、広島水海技セ、大分水研セ、水産機構西水研）

③　健康診断技術を用いた次世型マガキ養殖システムの開発支援

DNA チップやエネルギー配分モデルを導入してマガキの高品質化および出荷期間の長期化をはかる技術を開発する。

（水産機構増養殖研、中央水研，北水研、瀬戸水研、東大院農）

５　達成目標

マーケティング戦略を確立するとともに、健康診断技術を導入して生産性・収益性を高め、マガキ養殖の成長産業化を実現するビジネスモデルを構築する。

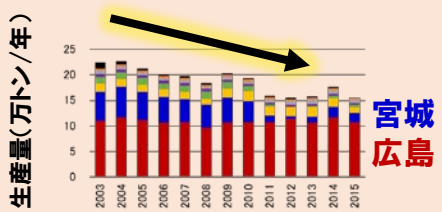
６　期待される効果・貢献

地方漁村の基幹産業であるマガキ養殖の持続的発展により活力のある地域社会づくりに貢献するとともに、国民に多種多様なおいしい国産地域ブランドカキを手ごろな価格で供給できる。

【連絡先　国立研究開発法人　水産研究・教育機構　045-227-2600】

30025C	地場種苗・健康診断・経営戦略でピンチをチャンスにかえるマガキ養殖システムの確立

日本のマガキ養殖のピンチ



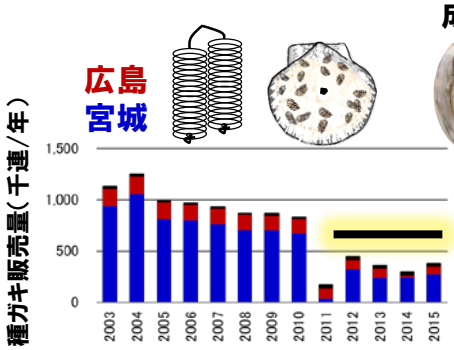
- 15万トン・300億円/年に減少
- 2大産地と中小産地
- むき身カキが主力
- 生産・収益性が低下

なぜピンチなの？

① “天然種苗”の供給が不安定化・価格も上昇

② 産卵後のへい死や身入り(出荷)の遅れが増加

③ むき身生産などで労働力不足が深刻化



背景

東日本大震災

海洋環境の変化

社会環境の変化
（高齢化・人口減）

研究内容

マーケット基軸の経営戦略

★マーケットの規格・ニーズ解明
★カキ産地マーケティング戦略構築

経営戦略の明確化

地場種苗を活かした養殖システム

潮間帯でのシングルシード天然採苗技術の実用化

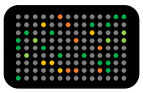
設置して待つだけ

★簡単・低コストにシングルシードを確保
★2割以上を地場種苗に，供給を安定化

シングルシードの地場種苗

健康診断技術の開発

体内情報解析



DNAチップ

エネルギー配分モデル

健康診断を活用して養殖技術を開発
★成長・身入り・生残を向上させる技術

支援・技術提供

殻付きカキ養殖システムの確立

★成長や生残，身入りの改善で
収益2割以上アップ，地域ブランドの創出

収益性の高いビジネスモデルの構築

シェア拡大

オイスターバーなどの国内外のマーケットでは殻付きカキ消費が拡大！
国内ではカキ小屋なども人気！

次世代型のマガキ養殖で成長産業化（おいしいカキ供給，漁村活性化にも）